

「ドンドンたたく胸のある幸い」（2022. 11. 20）

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」（マタイ 7:7-8）

マルコ 4 章で、イエス様が「向こう岸に渡ろう」と言われて、弟子たちが舟に乗りガリラヤ湖に漕ぎ出します。すると、激しい突風が起こり、弟子たちは命の危険を感じます。その時、弟子たちが、眠っておられたイエス様に助けを求めてこう叫ぶのです。「先生、おぼれても構わないのですか」。ここで注目したいのは、弟子たちが遠慮なく「寝ていないで、起きて助けて下さい」とイエス様を訴えていることです。調べますと詩編 44:24 とか詩編 35:23 にも、「主よ、なぜ、眠っておられるのですか。目覚めてください。」とか「わたしの主よ、目を覚まし起き上がり、私に代わって争って下さい」とか救いを求める祈り・叫びがあります。私たちが命に係わる時、心を注ぎだしてこのように叫び、訴え、祈っていいという事です。主は受け止めて下さるのです。

創世記 18 章で、アブラハムとサラは、ありえない、と神の約束を笑いました。しかし、神は「主に不可能なことがあろうか？」と問いかけ、信じ、そこに立つように招かれました。私たちが、ともすると、神の約束を信じて始めた信仰生活も、この世の常識や価値観に縛られて、そんなことありえない、とひそかに笑う時があるかもしれません。しかし、「主に不可能なことがあろうか？」主は礼拝の度ごとに、私たちに信仰のチャレンジをされます。万事を相働かせて益となさる全能の主です。この問題をどう解決に導かれるのか、期待して生きる者でありたい。場合によっては、「わたしの主よ、目を覚まし起き上がって助けて下さい」とすがりつき、ドンドンその胸をたたいていいのです。それも私たちが主の全能を信じる信仰の在り方です。

上掲の御言葉はイエス様によるその保証です。「門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」神の胸をドンドンたたき、その門を開いていただきましょう。たたくことができる胸がある！なんと信仰者は幸いなことでしょうか。

